

注意点1



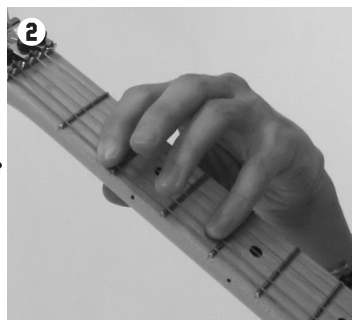
左手

**中&薬指の素早い動きが肝！
パワー・コードのミュート**

メイン・フレーズのような16分音符を主体にしたカッティング・フレーズでは、ブラッシングを行なう左手のコントロール力が必要になる。左手のミュートのオン/オフがルーズになると、サウンドの歯切れが悪くなり、リズムも乱れているように聴こえてしまうので気をつけよう。このメイン・フレーズはパワー・コード主体のバックギンになっているので、ブラッシング時には押弦指ではない中&薬指を活用して、振動を抑えるようにすると良い(写真①&②)。中&薬指を上下にスピーディに動かして、低音弦を的確にミュートすべし！



① パワー・コードのブラッシング時。4本指を使って、高音弦もしっかりミュートしよう！



② 中&薬指は、ブラッシングに即座に対応できるようにするため、少しだけ浮かせた状態で待機しておくこと。

注意点2



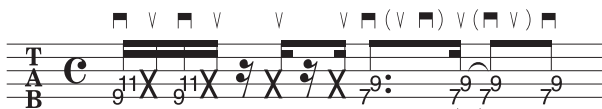
理論

**実際に歌いながら
リズムを確認しよう！**

このメイン・フレーズは、まず“タツタツ/ターター”といった感じで、実際に歌いながら【註】フレーズ内容を覚えると良いだろう(図1)。空振りとブラッシングのタイミングをしっかり頭に入れて、1拍ごとに分けながらゆっくり練習してみてほしい。実際に演奏する時には、ブラッシング時のピッキングに注意が必要だ。カッティング・フレーズに慣れていないと、ブラッシング音を弱く弾いてしまいがちになるが、弱く弾くとサウンドにキレがなくなる。したがって、ブラッシング音にアクセントを付けるぐらいの勢いで強く弾いてみると良いだろう。

図1 リズム・キープするための演奏法

・メイン・フレーズ3小節目



タツタツ タンタターター

空振りとブラッシングのタイミングに注意して、歌いながら演奏してみよう。

注意点3



理論

**ベース音が半音ずつ下降する
クリシェ的なコード進行**

メイン・フレーズ3~4小節目に登場するE→B(onD#)→Dというコード進行は、ベース・クリシェ的な流れになっている(図2)。クリシェとは、このようにベース音がE音→D#音→D音と半音ずつ下がっていくことで、独特なオシャレ感を演出することができるのだ。ここで使用するB(onD#)はP.34のウェブ対応の詳細解説にあるコラムで紹介したオン・コードの省略形で、Bコードの3rd音であるD#音とルート音であるB音の2音のみを押さえる。Eコードからのチェンジは、人差指を1フレット分下げのみだが、人差指を素早く移動させるように心掛けよう。ここでは、特にベース音の流れを意識しながら演奏してみたい。

図2 クリシェ風のベース・ライン

・メイン・フレーズ3~4小節目



E音 → D#音 → D音

半音ずつ下降していく。

【実際に歌いながら】実際に歌えなければ、そのフレーズを理解したとは言えない。TAB譜を見てもリズムがよくわからないフレーズに出会った時には、音源を聴きながら一緒に歌う練習をしてみよう！